平成30年度第3回仙台市学校給食運営審議会会議録

1　日　　時　　平成30年12月20日（木）
午後11時00分開会
午後1時30分閉会

2　場　　所　　南吉成学校給食センター 2階 会議室

3　出 席 委 員　　岩崎奈緒子委員，花岡弘二委員，平井みどり委員，岩井博美委員，
曽根由美子委員，髙橋順子委員，岩崎薫委員，岡崎博子委員，佐藤修子委員，
小野寺啓次委員，木村ひろみ委員，渡邉泰信委員

4　事務局職員　　千葉総務企画部長，西崎健康教育課長，廣瀬主幹
金田給食運営係長，渡辺給食施設係長，鎌田主査，結城主査，千葉主査，齋藤指導主事
白鳥南吉成学校給食センター所長

5　説　明　員　　西崎健康教育課長，金田給食運営係長

6　定足数の確認

議事に先立ち，事務局より，本日の出席者が12名であり，仙台市学校給食運営審議会条例第5条第2項の規定による定足数を満たしているので，本会議は成立している旨報告がなされた。

7　会長及び副会長の選出について

事務局　委員の改選に伴い，仙台市学校給食運営審議会条例第4条第1項の規定に基づき，会長及び副会長を選出していただく必要がある。どなたかご推薦をいただきたい。

委　員　事務局に案を提示してもらったらどうか。

事務局　事務局としては，会長には引き続き岩崎薫委員，副会長には栄養学の専門家である丹野委員がよろしいのではないかと考えている。

委　員　（異議なし）
（岩崎薫委員を会長，丹野委員を副会長に決定した。）

会　長　それでは，これより議長を務めさせていただく。まず，仙台市学校給食運営審議会実施要領第6条の規定で，会議録の署名委員は，会長と会長が指名する委員となっていることから，髙橋委員を指名する。

8　説明・報告事項

(1)「仙台市学校給食の概要について」

事務局　（資料6頁～11頁に基づき説明）

会　長　ただいま事務局からの説明について，委員の皆さまから，何かご意見・ご質問はあればお願いしたい。

委　員　（特になし）

会　長　それでは，続いて「南吉成学校給食センター施設紹介」を事務局からお願いしたい。

(2)「南吉成学校給食センター施設紹介」

事務局　それでは，「南吉成学校給食センター施設紹介」をさせていただく。はじめに，ビデオ映像をご覧いただき，そのあと見学者通路に移動して実際の調理場内の様子をご案内したい。
（ビデオ映写，続いて見学者通路に移動し，調理場内の説明）

会　長　それでは，議事に入る前に，ここで一旦休憩とし，給食試食の時間としたい。審議会は12時15分に再開とする。
（休憩～給食試食）

9　議事「適正な学校給食費について」

会　長　では，時間になったので審議会を再開する。議事は「適正な学校給食費について」である。まず，これまでの審議経過について確認をしたい。事務局より説明願いたい。

事務局　平成31年度以降の適正な学校給食費については，7月に開催した第1回審議会において，教育委員会から当審議会に諮問し，11月の第2回審議会で審議をいただいた。

その際，事務局からは概ね次のような説明を行った。

- 給与栄養量は，昨年度に比べ大きく減少はしていないものの，年々減少傾向にあり，充足率が100%に達していない栄養素が次第に増えている。
- 給食費のうち，副食に充てることができる額は，前回改定の平成25年度に比べ，米飯及びパン，牛乳の価格が上昇している結果，相対的に少なくなってきている。
- 一部の食材価格については引き続き上昇傾向又は高止まりが見られ，献立作成や使用食品の調達への影響が大きくなりつつある。
- 本市の給食費の額は県内では低い水準，政令指定都市でも平均より低い額となっている。
- また，平成31年10月に予定されている消費税率の改定や，天候不順など予見が難しい様々な要因により，今後も食品の価格が上昇する可能性は否めない状況である。
- 一方で，給食費の額は，保護者負担に直結するものであり，家計に与える影響も大きいことから，設定額については慎重に検討する必要があるとともに，仮に改定となれば，一定の周知期間が必要と考えている。

以上のような説明に対し，委員の皆さまからは，食材価格の上昇や栄養量が低下している現状を踏まえると，給食費の改定もやむを得ないのではないか，ただし具体的な額については，改定によって献立や栄養量がどのように改善するのかといった検討など，様々な観点からさらに議論を尽くすべきである，また改定に当たっては，保護者に対し丁寧に説明する必要があろうというご意見を，大筋でいただいた。

このため，適正な学校給食費については継続して審議する旨，また今後は学校給食費を改定する方向で審議を行うが，具体的な改定内容の決定や決定内容の保護者への説明・周知に一定の期間を要せざるを得ないことから，平成31年度の学校給食費については据え置きとすべきである旨を，「意見書」という形で，教育委員会に提出いただいたところである。

会　長　続いて，委員の皆様にご意見やご質問を頂く前に，本日配布された資料「『学校給食摂取基準』と学校給食の充実に向けた考え方について」の説明を事務局にお願いしたいと思うが，いかがか。

委　員　（異議なし）

会　長　それでは，事務局から説明をお願いしたい。

事務局　前回の審議会の後，報道等で「本市の学校給食が栄養量不足である」といったことが大きく取り上げられ，それに対して市民の方々からも様々なご意見を頂戴している。また，市議会においては，報道にあった栄養量低下に関する原因や，児童生徒の体の発達への影響，摂取基準や学校給食の位置付け，食材費の負担のあり方などに関する質問があった。給食費の改定を審議していただくに当たっては，委員の皆さまに学校給食摂取基準を含め学校給食の意義や役割等について共通認識，共通の尺度を持っていただくことが不可欠と考えている。これから説明させていただく資料は，学校給食摂取基準の位置付けや，それをどう捉えて学校給食を実施していくのが望ましいのかといったことを中心に作成した。本日は委員の皆さまが今後の仙台市の学校給食を考えていただくための必要な事項やポイントについて理解を深めていただくと共に，共通認識を図っていただければ幸いである。なお，現在様々な視点から具体の改定額に関するシミュレーション等を行っており，次回以降の審議会で提示してまいりたい。それでは，担当係長より，資料の内容について説明する。

事務局　（配布資料「『学校給食摂取基準』と学校給食の充実に向けた考え方について」に基づき説明）

会　長　ただいまの事務局の説明について，ご意見，ご質問等あればお願いしたい。

委　員　栄養量について，他都市の状況が分かれば教えてほしい。

事務局　平成29年度の政令市の小学校の状況では，基準をすべて満たしているというのは1都市のみとなっている。それ以外の政令市はいずれかの項目を満たしていない状況である。

委　員　全てを満たしている都市を1位とした場合，仙台市は政令市の中でどのくらいの順位にいるか。

事務局　仙台市の状況はどちらかというと低い方だと考えている。

委　員　報道等で栄養量が足りていないことに驚いた保護者もいると思うが，不安に感じている保護者を安心させる取り組みはどのように考えているか。

事務局　教育委員会で31年度の給食費は据え置きと決定する予定であるが，これを受けて各家庭に現在の状況と，今後栄養充足率について改善を図っていく旨のお知らせをしていくつもりである。

委　員　今の段階での改善策としては何かないのか。

事務局　現在の給食費のままでは難しいところまで来ている。

委　員　今後，給食費を改定することで栄養充足率を改善していくということか。

事務局　平成25年度に現行の給食費となって以来，主食価格の高騰などにより，副食の食材に割ける額が少なくなってきた。栄養量の充足のため，学校現場で献立の工夫や，食材をどう選択するかということで取り組んできたが，工夫の余地が少なくなってきており，前回の審議会でも給食費改定の時期ではないかという議論があった。一方で，保護者の負担増ということもあり，いきなり改定ということは難しいため，31年度については現行給食費のまま据え置きということで，32年度以降の改定に向けて，望ましい給食費はどれほどなのかということを考えていくということになっている。引き続き現行の給食費での献立の工夫を続けていくが，現時点での新たな改善策があるかと言われるとなかなか難しい状況にある。

委　員　他都市で比較的栄養量が充足しているところは給食費も高いのか。

事務局　すべての項目で栄養充足率を満たしている新潟市の場合，小学校で284.92円，中学校で377.76円である。仙台市は小学校245円，中学校290円なので，比較すると高い水準になっている。

委　員　食べる楽しみが子供にとって一番必要なことだと思う。摂取基準をすべて満たそうとした場合の課題として，残食の増加ということが挙げられている。残食率は年々減少しており，その原因として，食育での生きた教材として指導の意識化を図ってきたことが残食減につながっているとのことであった。このことから，摂取基準をすべて満たそうとした場合の課題として，残食の増加を挙げるのは拙速ではないか。同じように意識改革をしていけば，課題解決されるのではないか。

事務局　各学校で栄養教諭，学校栄養職員が食育を進めている。摂取基準をすべて満たそうとすることが残食の増加と直接的に関わるかと言えば確かに拙速かもしれない。一方で栄養摂取だけに目を向けた場合に，摂取基準を満たす同じような献立だけを日々提供していけば，栄養充足率については改善されるかもしれないが，子供たちの食べる楽しみ，食に対する関心に結びつかず，残食が増加する懸念もあるため，課題として挙げた。

委　員　栄養充足率を上げることによってそのような課題が発生するのであれば，上げなければよいということか。

事務局　栄養量が充足していないということがクローズアップされている。栄養量の充足だけを考えて献立作成を行うと，必要な栄養価を多く含む食材を使った同じような献立が続いてしまうということを懸念している。極端な想定かもしれないが，栄養量の充足についてだけ改善を図ろうとすると，児童生徒の食べる楽しみの減にもつながるのではないか。栄養量の充足も重要だが，食育という観点も含めて，保護者の皆様のご理解を得て給食費の幅を考えていきたい。

委　員　学校現場での栄養摂取の管理方法について説明したい。栄養量が1日で満たされる献立は難しいので，1週間・1か月単位で管理している。事務局が懸念しているのは，学校現場で数値を追うことだけを求めてしまい，子供たちの食べる意欲に意識が薄れてしまうことを危惧しているのではないか。食べる意欲は生きる意欲につながっていると思う。健康保持だけではなく，食べることは心も豊かにしてくれるので，そういった面も大事にしていきたい。また，新聞報道などで保護者が学校給食に目を向けてくれるのはいい機会かと思う。現場の者としても努力していかなければならない。残食を減らす取り組みは努力しているところであるが，主食・副菜・主菜が揃った時にどれだけ食べてくれるか残食になるか，考えていくべきところである。

委　員　文部科学省の基準はあくまで1日に望ましい基準ということなのではないか。家庭で1日の3分の2を摂っているかというと難しいのではないか。子供たちには楽しく食べてほしい。栄養量については満たしていないところばかりクローズアップされているが，ある程度満たしているの

ではないか。また，文部科学省より仙台市の方が，たんぱく質では高い基準となっているが，どのような設定になっているのか。消費税改定もあり，値上げはやむを得ないという意識を保護者は持っていると思うが，摂取基準の数値設定の考え方を教えてほしい。

事務局　仙台市で独自に設定しているのは，エネルギー，たんぱく質，脂質である。このうちたんぱく質と脂質は，エネルギーの値から算出されるもので，エネルギーは身体測定の結果を反映させている。

委　員　小学校の現場から。児童には，「いただきます」「ごちそうさま」といった挨拶や，命をいただいているということ，調理に携わる人への感謝の気持ちを持つようにと日々教育に当たっている。栄養面も大切であるが，食べる子供たちへの食育も重要である。児童は小学１年生から６年生まで，大きく成長する。発育状況や，体格に応じて必要な栄養量が変わってくる。学校では児童に必要な栄養量を持つ給食を，限られた食材費をやりくりして提供している。成長にとって欠かせない必要な栄養量に大きな課題があるのであれば，給食費改定に向け保護者に丁寧な説明が必要だと思う。

委　員　中学校の現場から。学校では食育の推進を行っているが，家庭では本当に必要な栄養量が摂られているか。食材価格の上昇は献立に影響しており，現場は献立作成に苦労している。給食では果物，野菜の和え物，葉物類が少なくなっている気がする。食育を推進していきたいところだが，学校栄養職員の苦労を考えると給食費を値上げしてはいかがかと思う。

委　員　保護者の立場から。先日，栄養充足率について報道されて以来，保護者の間では結構話題になっている。栄養量が足りていなかったことにショックを受けている保護者もいる。毎日，栄養を考えて作られた給食を出してもらっていることはありがたいと思っている。給食費を値上げすることになっても，保護者にきちんと説明していくのであればよいのではないかと思う。新潟市の充足率が一番良いということだが，課題として，残食率が上がったり，献立がパターン化したりしてはいないのだろうか。

事務局　詳しくは把握していないので，議論を深める際にそういった情報も提供していきたい。

委　員　保護者の立場から。学校給食というのはありがたい制度と感じている。マスコミ報道で，仙台はそういう状況なのかと考える父兄が多くなったのでは。ただ，基準を満たすことだけに終始してしまうのは少し違うのではないか。食べる喜びや命のありがたさなど，学校給食から子供たちにいろいろなメッセージを伝えようとする姿勢があるということを知り，安心している。栄養価を重視したり，文化，命を重視したりと，様々な視点から学校給食は捉えることができると思う。一概に「こうして」とは言えないが，仙台市としての視点はこれだと示してもらい，その上で値上げはやむを得ないという旨保護者に説明してもらうのがよいかと思う。仙台市の子供にはこれが必要という信念を持って，それをしっかり伝えていくことが必要ではないか。ただ，簡単に値上げした方がよいとは言わないでほしい。様々な意見を聞いたうえで進めてほしい。

委　員　給食費が高い他市の栄養充足率を提示してほしい。

会　長　一番初めに事務局より共通の尺度という話があった。学校給食には栄養摂取とともに食育という部分もある。また保護者負担の視点も加味して，それらのバランスを取りながら給食費の検討をしていく必要がある。

事務局　学校給食には栄養摂取の部分と食育の部分があるが，多様な食材を給食で活用できるような環境にしていくことで，地産地消といったことも図られる。そのための費用を保護者からいただいている。過大に頂くことのないよう，検討に当たっては視点のバランスが大切かと思う。今後，どういった食材を使ってどれくらいの栄養量にするか，献立がどのようなものになるか，そのためにはどれくらいの保護者負担が必要かといった具体的な資料も示していきたい。審議は複数回になろうかと思うが，議論いただければと考えている。

会　長　栄養摂取，食育，保護者への周知や負担のバランス，それらを土台にして適正な給食費をどうしていくか，今後審議を進めていきたいと思うが，それでよろしいか。

委　員　（異議なし）

会　長　今回の審議会では，今後，学校給食費の改定を審議するに当たり，仙台市の学校給食の栄養量のあり方や充実するための視点について，審議会として考え方を共有することができたのではないか。次回の審議会では，今回共有した考え方をもとに，具体的な改定額について，献立内容や

栄養価がどのように改善するのかといったシミュレーションを検討材料にし，さらに議論を深めていければと考えている。

10　その他

会　長　事務局へ質問だが，給食費改定までのスケジュールについて，仮に平成32年度に改定するのであれば，審議会としていつまでに答申を行う必要があるか。

事務局　学校・保護者への周知期間をある程度確保する必要があることから，審議会からの答申もそれにあわせた時期にいただければと思う。参考として，前回平成25年度の改定時には，平成24年5月に審議会より給食費改定について答申をいただいた。これを踏まえると，仮に平成32年度に給食費を改定するのであれば，平成31年度前半に答申というのが目安になると考えている。次回の当審議会については，本日の意見等を踏まえ，具体的な改定額について，献立内容や栄養価がどのように改善するのかといったシミュレーション資料の作成を行いたい。

なお，次回の審議会は2月上旬ごろに開催し，引き続き適正な学校給食費について審議いただく予定である。審議会の時間帯だが，日中はお仕事の都合で出席することが難しい委員もいらっしゃることと思う。できるだけ多くの委員の方々に出席していただくため，次回の審議会は，夕方以降の開催を含めて調整したいと考えている。

以　上

平成31年　1　月11日

署名委員　仙台市学校給食運営審議会会長

岩崎　勲

仙台市学校給食運営審議会委員

髙橋順